

# 令和2年度第1回あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会会議録要旨

令和2年10月30日（金）  
午後2時から午後4時47分まで  
あま市役所本庁舎2階 大ホール

## 1 出席者等

出席者等（委員） 13名  
（事務局） 5名  
（傍聴者） 1名

## 2 副市長あいさつ要旨

当委員会は、平成27年度に立ち上げ、谷口先生の指導のもと、あま市における政策判断、そして人口減少の抑制や地域活性化の推進を目的として、あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略を平成28年2月に策定して、毎年の数値目標やKPIを掲げている。

全国的には人口が減っている中、あま市においては、微増であるが89,000人と徐々に増えている状況である。これは、名古屋市のベッドタウンという位置的・地理的な優位性もあるが、市民のみなさんのご協力、いろいろな施策協働などで、いろいろお手伝い頂いて、あま市の政策展開や、この戦略に基づいた展開が、一つの要因になっているのではないかと考えている。

しかしながら、少子化が絶対的に進むという中において、人口減少を抑制し、市としての人口をどう考えるかといったときに、いろいろなことを考えて展開をしていく必要があると思う。また、コロナ禍という先が見えない状況で、そういうことに対応した展開も必要になってくると考えている。

本年度が第1期の総合戦略最終年度ということで、これから第2期の総合戦略を策定していく。委員の皆様方には、それぞれのお立場、知見に基づいて、いろいろな忌憚ないご意見をいただきたいと思っている。また、ご協力をお願いしたいと思っている。

## 3 新委員紹介

○事務局より、新委員3名を紹介。

- ・あま市まちづくり委員会の代表 小林優太委員 ※欠席
- ・愛知県立五条高校校長 伊藤正樹委員
- ・株式会社三菱UFJ銀行東海公務部部長 近藤崇委員

#### 4 役員選出

○委員会要綱に基づき、会長は委員の互選により選出、また、副会長及び座長は会長の指名により指名された。

- ・会長：早川 安広 委員
- ・副会長：川原 史子 委員
- ・座長：谷口 庄一 委員

##### 【会長あいさつ要旨】

これから第2期の総合戦略を作っていく中で、皆様方といろいろなご意見、ご協議いただいて、いい形、実のあるものにしていきたいと考えている。

##### 【副会長あいさつ要旨】

これからいろいろな形で、しかも長く、コロナの影響が現れてくるのではないかというふうに思っている。その中で、この委員会というのは、柔軟に時代の変化や、人々の気持ちの変化に寄り添った意見をお互いに出し合うことで、ひょっとしたらこれまでに決めてきた目標の数値や、価値基準を見直すような必要も出てくるのではないかと思っている。

ここで皆様の貴重な意見を出し合って、それを共有することに意義があると思っている。

##### 【座長あいさつ要旨】

最近、広島県の福山にある鞆の浦という場所を研究している。鞆の浦にある鞆城というお城を作ったのが福島正則だったこともあり、あま市はそういう歴史観光みたいな部分というのは、もっともっと掘り起こせると考えており、またアイデアがまとまったらぜひ、あま市にアイデアを提供したいと思っている。

このコロナでどのような会議体になるか分からないが、あま市はもっといける、というのが私の今の思いである。また皆さんと一緒に、いろいろとお知恵を絞って、未来のあま市を、道筋を作ることができたらと思っている。

## 5 議題

- (1) 現総合戦略の効果検証について【資料1】
- (2) 次期総合戦略の策定について【資料2】

### (1) 現総合戦略の効果検証について【資料1】

- まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証資料【資料1】に基づき、基本目標及び施策ごとに指標の現状値（令和2年9月検証時）を確認。

#### (主な意見・質疑等)

#### 【基本目標1 施策(ア) 商工業の振興】

##### ○委員

「市内の法人新規設立数」について、昨年から起業人に向けていろいろやっていたが、今年度になってコロナの影響もあり、会社を新規に立ち上げる人は、もうほとんどないような状況である。何とか起業家に頑張ってもらって、一つでも多くの会社ができればと考えている。

#### 【基本目標1 施策(イ) 地場産業の振興】

##### ○事務局

「七宝焼アートヴィレッジでの七宝焼教室参加者数」については、七宝焼アートヴィレッジへ昨年6月1日に天皇・皇后両陛下が訪問され、その後すごく人気が高まり、多くの人に来ていただいたが、1月以降、新型コロナの影響を受けて、かなり入館者が減少したと担当課から聞いている。増えた分、減った分、PRした効果がどれくらいあったかなどが計れないが、令和元年に検証した数字よりも、千人ぐらい増えた。

#### 【基本目標1 施策(ウ) 農業の振興】

##### ○委員

「農業塾参加者による産地直売施設販売参加者数」について、農協としては、今年新たにあま市の協力を得て、七宝地区に農業塾を開校しようと準備をしているところである。これからも農業塾を出た方が、例えば農協の産直に出していただけるように一生懸命指導している。七宝地区でも、多分20名ぐらいになると思うが、農協の産直センターの方に出していただくよう皆さんで頑張ってもらってやっていきたいと思っている。特に高齢化が進んでいるので、若い方でも少しでもやっていただけたらという気がしている。子供さん方にいろいろなところで農業体験を去年もしてもらったが、今年は

残念ながら、小さなエリアでしかやれなかった。これからも、少しでも伸ばしていきたいと思っている。

## 【基本目標 2 施策（ア）シティプロモーションの推進】

### ○事務局

「年間の転入者数」について、目標には達していないが、数は増えている。原因を突き詰めるのは難しいが、やはり名古屋市から近い甚目寺地区への転入、七宝地区、木田郷南地区の区画整理事業による転入、外国人の方の転入が合わさったものであると想定している。

### ○委員

「スポーツの国際大会や全国大会の会場または練習場の招致件数」については、本来、令和2年8月に、全国の中学校の相撲大会を本市の甚目寺総合体育館で計画をしていたが、新型コロナウイルス感染症対策で中止となってしまった。またバスケットボール、バレーボールなど、甚目寺総合体育館等を使った大会等を誘致ができればやっていきたい。

## 【基本目標 2 施策（イ）観光の振興】

### ○事務局

「七宝焼アートヴィレッジ来訪者数」について、アートヴィレッジへ昨年6月1日に天皇・皇后両陛下が訪問されたということで、その後すごく人気が高まり、多くの人に来ていただいた影響のほか、七宝焼アートヴィレッジは広大な芝生広場があり、天気の良い休日などは芝生の上で親子連れの方が大勢遊んでいたということで、逆にコロナ禍において、良いふうに影響したとも考えている。

### ○委員

8月のあまつりがコロナの関係で中止になり、また、11月末のイルミネーションも中止ということで、今、観光関係では、農協から食材を頂戴して、小中学生のレシピコンテストなどを細々とやらせていただいている。

### ○事務局

「観光ボランティア数」について、観光協会事務局に確認したところ、こちら、目標値が50人ということになっているが、結果、現在21人で、一見目標値から乖離していると感じられるが、現在のあま市の観光の規模からすると、この21人位が妥当な人数であるというふうに考えている。

### 【基本目標3 施策（ア）安心して子どもを生み育てられる環境づくり】

#### ○委員

「あま市・大治町広域ファミリー・サポート・センター事業 依頼会員数及び利用回数（あま市分）」について、数値的な目標達成はしている。

ただ、数値的なものには換算できない部分もあるが、必要としている人が安心して利用できる運営というものを目指している。

事務局のスタッフは、会員さん一人一人の事情に寄り添った運営を心がけている。それが可能であるのは、担当課である子育て支援課の歴代の職員さん全員が、現場の職員の声に耳を傾けて、協働に取り組んでくださっているということである。

今後の課題は2点あり、1点目が、潜在的に必要としている人にきちんと情報を届けるということである。潜在的に必要としている、いつか必要となるかもしれない人たちに向けてのアプローチで、あらかじめ早めの登録をしていただけるような運営をしていきたいと思っている。

現時点でも、子育て支援課のご協力はもちろん、例えば、健康推進課の協力で母子手帳配布時にパンフレットを配布していただいたり、1歳半健診、2歳の健診、3歳の健診等で、スタッフが出向いてPR活動を努めたりとか、それ以外にも学校教育課、生涯学習課、あま市民活動センターの皆様にもご協力いただいて、活動のPRに努めているので、今後ともPRに力を入れていきたいと思っている。

そして2点目が、やはり活動実態に即した柔軟な対応をしていきたい。要綱がこうだから、ルールがこうだからと前例を覆すことをしないのではなくて、きちんと一つ一つの状況に応じて対応していけるような柔軟性を持っていきたいと思っている。そのためには、やはり今後も、子育て支援課さんとの相互理解と協力、協働の体制が必要だというふうに考えている。

#### ○事務局

「第三子保育料無料化対象児童数」について、ここ数年は、人数が少なかったが、数値は元年度時点で125人ということで増えている。これは、子育ての無料化制度の影響で、子供さんを預けやすくなったということが、数字に現れているのではないか、という担当課の見解である。

### 【基本目標3 施策（イ）学校教育体制の整備】

#### ○委員

「子どもが学校生活を楽しんでいると思っている保護者の割合」について、非常にこの評価が難しい部分があると思う。

何をして子どもたちが学校生活を楽しんでいるかということで、まず、保護者の皆さんに、学校の様子を知ってもらうことが、学校としてやるべきことである。ホームページや授業参観や行事などを通じて、子どもたちの生き生きとした活動の様子を見てもらうという評価だと思う。

それぞれの学校では毎年、学校評価を17校全部やっており、昨年度に比べると、2ポイントほど下がっているが、今回コロナ禍で、3ヶ月間、学校が臨時休業になった際、各学校で工夫しながらガイドラインも設けて、YouTubeや学校のホームページを使って、当然、学習内容等も含めた形で発信してくれた。それで、それぞれの学校の様子を聞いてみると、閲覧数がすごく増えているというようなことも現実あった。

そのような形で、まずは見える化を保護者の皆さんに図りながら、子どもたちの実際の授業の様子や活動の様子を映像で発信するのは、肖像権のことや、いろいろなことがあり、難しい部分もあるが、昨年度から全小中学校でコミュニティ・スクール等も発足して、地域の方々、保護者の方々にも、学校運営に参画していただく取り組みをしているので、より一層、保護者の皆様方にそういった子どもの様子を通じて、子どもが満足しているかどうかという指標の評価をしていただけるといいと思っている。

「学校生活を楽しんでいる児童生徒の割合」も、校舎の問題や授業について、ハード、ソフトいろいろあると思う。

当然、授業が一番あるわけで、それと行事の問題、そのようなことも含めて、楽しいというものの定義である。やはり、子どもたち一人一人、その楽しさ、楽しいという感覚は違うと思うので、その辺のところを明らかにして、やはり満足をする、満足感を味わわせるという、そういった教育活動を各学校でやってもらうというようなところを今後課題にしていきたいと思っている。

特に、このコロナ禍で言うと、来年度に繋がっていくと思うが、新学期が始まって2ヶ月の授業ができなかったというところで、あま市の場合は、学習指導要領の全体の3割を一応精選し、7割ということで、それを目途にして、何を精選していったら子どもたちにとってマイナスにならないかということ、教務主任を中心にしながら精選をして、それを海部地区全体70何校に全てお配りをしたという実態もあり、それから、行事も3割をカットすると。やはり子どもたちにとって行事は非常に魅力があるが、逆に言うと、その行事を成功させるために、ある意味ではかなり時間を割いていたということがある。だから、本筋に戻って、授業の中でそういった行事の目的みたいなものをきちっとしながら、その積み重ねによって、短い1日で子供たちの本当に満足度を爆発させられるような、そういった取り組みを各学校でやってい

ただくというようなことをした。

1つの例として、3月に急に、国、首相、知事から臨時休業ですよと言われて、中学校の卒業式は普通にやったが、小学校は休業の真っ只中で行われた。それで、校長たちにはよく言うのだが、行事をやるための準備にすごく時間をかけているという部分があるから、そういうものをもうこれから削ぎましよう。

特に、小学校の卒業式に行かせていただいて、本当に感動した。ほとんど練習という練習はなく、学校が少し早く来て下さいということで、本当に、簡素な中に子どもたちは立派に卒業式を終えた。

だから、この姿を今度、ポストコロナのときに、この学校行事の精選等については、元に戻すのではなくて、やはり子供たちの楽しみというものは絶対保障しないといけないが、その辺のところの楽しみ、満足度というものをいかにこう高めていくかという、少し中身的なものを学校としては、これから考えていかないといけないということを確認させていただいた、とてもいい機会だったと思う。

「不登校率」の問題について、これは本当に全国的な傾向であって、確かに3月はほとんど授業がなかったもので、前年度よりも率は低かった。ただ、傾向を見ると、やはり小学生の不登校が増えており、一人一人違うと思うが、社会の環境の変化だとか、それから文部科学省自体が、不登校に対する考え方を少し変えている。学校復帰をさせることだけが、不登校対策ではない。だから個々に、どういうふうにチャレンジしていったらいいかという、その子どもたちが、将来社会に出て、生活できる生活力をつけるというような観点から考えていかないといけないと思うし、この第2期の部分のところでもまた提案をさせていただきたいと思うが、この不登校率ということで、数値を確認していくのではなく、違った方法を少し試みて、比較していきたいと思っている。

#### ○委員

「子どもが学校生活を楽しんでいると思っている保護者の割合」、「学校生活を楽しんでいる児童生徒の割合」について、本校でもし同じようなことをやったら、どんな数字が出るのかというふうに考えていた。保護者のパーセンテージが上回っており、児童のパーセンテージの方が、保護者よりも低くなっている。そこに若干のギャップがあるということは、少し注目ポイントということを思った。

「不登校率」については、コロナの影響というのは、やはりどこかにあると

うちの高校でも感じているので、その辺り、生徒個々への丁寧な対応が要ると感じた。

#### ○委員

傾向としては、五条高校と同じような傾向である。ただ、本校の場合は、新たなコロナ明けの不登校等はなかった。楽しい学校生活ということであれば、本校いろいろと地域の方に助けをいただきながら、いろいろな活動させていただいているので、かなり生徒たちが、積極的にいろいろなことをやるようになった、というふうには今感じている。

#### ○座長

うちの大学では、高校の時に休みがちだったという学生が、遠隔講義になり、出席率が上がり、単位が取れるようになった。それまでなかなかコミュニケーションが取れないということで、なかなか大学に来られなかった子たちは、そういう学習の新しい学びを得たのかもしれない。

### 【基本目標4 施策（ア）安全・安心なまちづくり】

#### ○事務局

「消防団員の充足率」について、令和2年9月検証時における令和2年4月1日現在は、策定時の現状値より下がっている。主な原因は、定員に満たない分団があるためである。特に人口の少ない地域において、定員に満たない分団が多い傾向にある。安全安心課において、各分団の消防団とも協力をしながら、市の公式ホームページですとか市の広報での周知、それから成人式においてPR活動を積極的に行い、団員確保に努めている。

なお今年度、女性の消防団員が2名在籍されており、徐々にではあるが、消防団が、女性の活躍していただく場としても、浸透していているというふうな実感を持っているところである。

「市内犯罪発生件数」について、令和2年9月検証時における令和元年は、目標値に達しており、かつ、年々減少傾向にある。主な要因として、平成29年度に設置された防犯協会による防犯カメラの設置や、また警察の協力を得ながら、地域の巡回の強化に努めている効果によるものと考えられると担当課から聞いている。

#### 【基本目標4 施策（イ）市民の生きがいと活力を高めるまちづくり】

##### ○委員

「シルバーカレッジ入学希望者割合」について、シルバーカレッジは参加者が高齢の方ということであり、今年度は大事をとって中止した。ただし、発足以来4年が経過して、OBが毎年この数（KPIの定員の数）だけ出ている。OBの方が非常に研究熱心で、向上心があり、OB会をぜひ作ろうということで、大体6割から7割位の方が、OB会に入っていて、事務局としても、今年度、マスターコースというような形で上級講座を立ち上げて、実際に進めており、2回程もうやっている。9月29日に第1回で、大体月1回とか2回とか、シルバーカレッジ教室もあるので、そちらの方でやるということである。

そのような形で来年度以降、シルバーカレッジ本体と上級講座を並行させながら、あま市のいろいろな学校のコミュニティ・スクールなども含めて、生涯学習の分野や、いろいろなまちづくりの分野でも活躍をしていただける取り組みをしていきたい。

##### ○事務局

「健康マイレージ参加人数」について、令和2年度の目標累計で6,000人ということで、現在の最新の数値が5,031人と、順調に推移している。

最初は一般コースだけで開始したが、途中から小中学生コースが入り、子供たちを巻き込んで、家族ぐるみで健康づくりをやっていこう、という取り組みが功を奏した結果だと思っている。

一方、毎年度、参加者が固定化していることや、若い方の参加が少ないことが課題である。

本市は令和4年度に、健康都市連合日本支部総会の全国大会を予定しており、さらに、この健康増進事業を盛り上げていく必要があるので、こちらの方も、どんどん数字を伸ばしていきたいと担当課から聞いている。

#### 【基本目標4 施策（ウ）都市基盤の整備、（エ）鉄道利用の促進】

##### ○事務局

「区画整理事業等による転入者数」について、市内2ヶ所で区画整理をやっているが、現状値が150人ということで目標の600人にまだ届いていない状況である。当初は秋竹地区が中心で、秋竹地区については市外からの転入が多かったと聞いており、人数も伸びたが、木田地区の方については、市内からの転居ということになると転入ではなく、市内の人口は変わらないため、少し数字が伸び悩んでいるところである。令和3年度以降も、まだ、分譲の予

定があると聞いているので、もう少し目標に近づけると思っている。

「鉄道利用者数」については、毎年順調に増えている。特に七宝駅の伸びが非常に顕著で、市街化区域が多く、住宅開発が盛んに行われている甚目寺地区に近いところにあり、また、無料の自転車置き場が整備されている結果、年々利用者が増えていると考えている。

#### 【基本目標4 施策(オ) 郷土に誇りと愛着が持てる、魅力あるまちづくり】

##### ○事務局

『「あまつり」来場者数』については、残念ながら、今年は「あまつり」が中止となった。来年は、もう少し今の状態が落ち着けば、行っていきたい。最近では、花火の情報をいろいろなところで、まつりの一環として取り上げていただいております、昨今、花火の前に場所取りをして見ていただけるような、かなり人数が増えてきており、本当にありがたく思っている。また、来場者は、バスを3地区に基地を設け、用意させていただいているが、昨年度に見たところ、割と自転車で来場していただける方が増えたのではないかと、人数的には、今後も増えていくように、また中身についても、いろいろ考えてやっていきたいと考えている。

##### ○委員

『市民活動センター「あまテラス」登録団体数』について、数値が今年度、4団体増えており、これは4団体登録が新規であったということである。今まで150団体ほどだったが、8割方がシニアの団体であった。ただ今年度、若い学生を主とする方の新たな団体が2団体登録されて、本当にこの先、未来のこのあま市を築いていく、市民活動の切り口から切り開いてくれる子たちがいるというので、我々も一生懸命支援をして、サポートしていているところである。

この数値も大切であるが、やはり今年度、特にコロナで市民活動団体が外に出られない、活動もできない中でも、一部の医療関係のサポートをしている団体、市民病院の関わりのある団体が、市民病院の支援を積極的にやられたり、コロナの受診の心得というようなものを作って市民に啓蒙活動をされたり、そういったご相談があつて、市民活動センターもサポートをさせていただいている。

また、シニアの方々が多いため、どうしても活動ができなくてずっと引きこもっていらっしゃる中でも、活動を止めたくないというところで、私たちも何とかオンラインのサポートをさせていただいて、ZOOM会議の支援や、

SNS講座をやって、それができるようになったら、とても喜ばれて、それで繋がりが広がったりというような、この数値にはあられない、いろいろな変化というものがあり、コロナであるが、ウィズコロナというところで、私たち住民主体のまちづくり、また新たに第2期でも出てくると思うが、生涯活躍のまちということで、市民活動の分野というのは、これから非常に重要な位置付けではないかというふうに思っている。引き続き、支援していきたいと思っている。

## **(2) 次期総合戦略の策定について【資料2】**

### **(説明要旨)**

#### **(4 ページ)**

- 第2期あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略については、第1期の枠組みを維持しながら、引き続き人口減少を抑える施策、一層の推進を図るものである。
- また、昨今の新型コロナウイルス感染症の克服やポストコロナ、さらにICTやAI、RPAなどの未来技術や、持続可能な開発目標として全世界共通の目標であるSDGsの理念を踏まえながら、地方創生の相乗効果を図っていくために、企画政策課の方ですべての課に照会をかけた上で、(素案)として策定したものである。
- 赤い字で書いてあるところは、前回と変わったところである。
  
- 戦略の体系について、基本目標が4つあり、一番下に、横断的な目標が2つある。国の戦略で、横断的な目標を加えたものを反映しており、4つの基本目標に反映させるものとしている。
- 基本目標1は、「人材としごとをつくり、安心して働けるまちをつくる」とし、特に「人材をつくる」という観点を加えた。
- 基本目標2は、「あま市への人の流れとつながりをつくる」とし、これまで、「人の流れをつくる」だけだったが、新たに、「人のつながりをつくる」という観点を加えた。
- 基本目標3は、若い人を中心に、「誰もが活躍できるまちをつくる」という観点を加えた。
- 基本目標4は、「健康で安心」というキーワードと、コロナ、SDGs、RPAなど、持続可能な「時代に合った地域をつくる」という観点を加えた。
- 基本目標1の施策「(ア) 人材の育成と働く場の確保」について、ここは第1期で「商工業の振興」というタイトルであったが、「商工業」という言葉が抜けているというのはいかがなものか、という意見が庁内会議の中で出た

ため、改めて、「商工業の振興と人材の育成」という（案）で修正を考えている。

## 【基本目標1：人材としごとをつくり、安心して働けるまちをつくる】

### （説明要旨）

#### （5ページ）

- あま市は名古屋市に近く、立地条件が非常に良いということで、ベッドタウンとして発展はしているが、市内での就業場所が不足している傾向がある。
- また、これまで地域の担い手として活躍されている中小企業者や、農家の方においては、後継者不足ということが課題となっている。
- これを受け、施策の（ア）として、「人材の育成と働く場の確保」を定める。右側には、関連するSDGsのアイコンを載せた。KPIは、下に書いてある通り。

#### （6ページ）

- 関連する事業について、主に人材育成の観点を追加。例を挙げると、上から7番目「地域との協働等による高等学校教育の推進事業」ということで、やはり高等学校は、将来の担い手を育成する、本当に今、地域の資源として、必要な存在ということで、高等学校との新たな連携体制を構築するということは、非常に大事なことだと考えているので、ここの部分で施策・事業を推進していきたいと考えている。
- 下から2つ目、「あま発未来創造塾事業」ということで、こちらは生涯学習課の方で既に取り組んでいるが、こちらは高校生ではなくて、主に大学生の方を対象に、地域活動とか、市政で活躍していただきたいということで、今いろいろ、若い人同士考えながら、魅力的な事業に取り組んでいるところである。こういった若い方を中心に、将来の人材を育成する事業を追加していきたいと考えている。

#### （7ページ）

- （イ）の地場産業の活性化について、七宝焼が主にあま市の有名な伝統的工芸品になっているが、こちらもやはり後継者の育成が大事になってくるので、一番下に「学校を通じた七宝焼関連事業」ということで、拡充をしている。小中高大と、学生さんたちに、七宝焼に関われるような事業を推進したいと思っている。
- （ウ）農業の振興について、こちらは農家の方が後継者不足に非常に悩まれており、やはり農地の利用集積が、さらに必要になってくるということで、そういった部分を拡充した。

## (主な質疑等)

### ○委員

私はプライベートで、テレワークをひとり親家庭のために広めていくような動きをポチポチしていたが、コロナにより、今ここに来て急加速しているような状況にあり、厚生労働省の方でも推奨されていると思うが、たまたま、岡崎市の方で、その推進、入門セミナー、スキルアップセミナーみたいなものを、自分はサポートだけですが、少しお手伝いをさせていただいて、割とほぼ参加者は女性の方であるが、かなりの反響で、積極的に勉強にいらっしやっている。

ただ、残念なことに、それを採用したいという企業さんの集まりが少し悪い。そこがうまくバランスが取れると、働き方、場所や、今のこの時期の安全な過ごし方とかいろいろな面で、テレワークという形があま市でも何かいろいろ動きが進んでいくと、いろいろ変わっていく、具体的になくて申し訳ないが、立地条件だけではなく、いろいろなことができるのではないかと。未知数ではあるが、もし何かこれを元にご意見いただければ、次に進めていただけたら嬉しく思う。

### ○委員

今の委員のご意見を聞いて、実はあま市も国の創業支援事業の認可自治体ということで、認可を受けて、この地域で、商工会さんと、それから、銀行さんであるとか、私どもNPO法人ほっとネット・みわも、あま市の特定創業支援事業者として認定をいただき、創業支援事業をさせていただいていた。ただ、ここ去年ぐらいから少し予算がなくて、創業支援セミナーとかそういった事業も少し縮小されてしまい、このNPO法人として関わる意味というのが、実は今、先程おっしゃっていた、やはりその女性であるとか、普通の起業する、バリバリ働く系の人ではなく、例えば、子育てが少し終わって、少しスロースタートでプチ起業する人であったり、あるいは、新たな新規事業にトライするようなリタイア組の起業者とか、そういった人たちを支援したい。

これは市民活動の切り口で、もう非常に近い分野でして、その切り口から少し、ほっとネット・みわでは、創業支援事業ということで国の予算をいただいて、創業支援事業と、創業の機運に至らない人たちを創業させるという創業機運醸成事業をしてきたが、なかなかこう、産業振興課との連携や、商工会との連携がまだまだ進んでいないところがあり、今おっしゃられたテレワークというのは、一つの在宅というのが非常にこれからキーワードになってくるのかなと、外に出ていた人達をこのあま市に引き戻して、新規創業者

の増加につなげるということは、この立地だからこそ、やりやすい取り組みではないか、というふうに感じていて、そのご意見を、うまくこの創業支援であるとか、このあま市に仕事を作るとか、これから空き家も増えてくるので、そういったところに、例えばインキュベーション的なスペースを確保して、そういったところにテレワークの人たちとか、これから仕事を生み出したいという人たちを集めるとか、何かこう施策ができるといいな、ということを感じていた。

○座長

テレワークをあま市でやり、その取引先は市外、海外であろうが構わないわけですよ。

○委員

今、厚生労働省の方も進めているのは自営型テレワークで、個人事業主なので、税金はあま市に払う。仕事先として場所は関係なく、市外、海外からの仕事をしている人もいますので、結構世の中の的に、あま市に住みながら、今の仕事を続けてもいいような流れになっているとも思うので、違うあま市のPR・アピールの仕方が出てくるとは思う。

○座長

だから、個人事業主というやり方や、状況によっては、その営業の部分は、また得意な人に頼むというやり方もある。または、そういうスペシャリスト連合を作るなど。

○委員

仲介事業者というのも実際業種としてあるため、そういう安心できる仲介事業者を立ち上げるというのも、一つとは思う。

○座長

そういう人が増えると、商工会に入ってもらえるような感じになるのか。

○委員

商工会はその後、会社を設立するにあたってのお手伝いは得意であるが、起業される方を掘り起こすというのは、なかなか難しいところがある。

## ○委員

リニアインパクトをどういうふうな形で吸収していくのかということで、後継ぎがいなくなって田畑を守るのが大変になってきたところについては、企業誘致で、どこのまちも結構競争を今している。

そういうところに、このコロナが来てしまったが、あま市は、人口が地の利で緩やかに増えている、という意味で非常に追い風もあり、ここへ来てやはり、中長期的にもっと、あま市のいろいろな基盤を強くしていくという意味でいくと、あま市に見合った形でいろいろな産業だとか、企業を誘致していくということは、非常に大事なことだとは思う反面、そこは、どこも同じようなことをやっていたりするというので、その特色が見えにくくなっているところもある。

その辺り、どういうような、あま市としての産業政策をやって、こういったものを強化していきたいから、こういうようなところを特化して誘致をしていきたいという、その辺りのアクセント、戦略がもう少し明確になると、私たちも一生懸命汗もかけるのかなというところも思っている。

## ○委員

企業誘致について現在進めているのは、清洲西インターの西に広がっている農地で、全体の計画として16.7ヘクタールの工業団地整備を検討している。当初一発で行きたいと思っていたが、地権者の農地であり、それも甲種農地という優良農地であるので、県の企業庁と共同して、西側の8.7ヘクタールを先行して進めている。現在は、地主様に対して買い取り価格を示して、土地購入の同意をいただいている状況である。

西側の8.7ヘクタールの内、道路や調整池などを省いて、6.6ヘクタールの工業用地を作る予定である。

では、そこに何を持ってくるかであるが、基本的には、ここの立地を含めて、どういう工場が来てくれるのか、それも募集をかけるわけであるが、現在、60社弱の企業から問い合わせがきている状況である。

今後、企業庁による開発決定がなされると、造成に2年ぐらい、それからそれと同時に、募集が始まるが、やはりまだ3、4年はかかる。たまたま今コロナであるので、来年からどうなるか分からない面もあるが、結局、少し遅い遅いと言われるタイミングが結果的によかったのかな、ということも思っている。

元々、この地域は、農地法の規制によって、一般の企業が開発しようとしてもできなくて、流通関係が県道沿いに開発することしかできないので、そうなると、その奥の土地が結局、死んでしまう。そこで田畑を一生やるという

形になるので、そういうことを含めて、地域を一体的に整備していこうということで、今16.7ヘクタールの内、最初の8.7ヘクタールで進めている。ただ、言われるように、大手メーカーさんをここに持ってくるということになると、16.7ヘクタール、8.7ヘクタールだと少し小さいと思う。ただ、民間で開発しようとする、流通に限定されるので、地区計画を都市計画決定することによって製造業が入ることができるということで、基本的には箱だけではなくて人が来る、地域の雇用が増えるということで、基本的には製造業を誘致しようと、今頑張っている。

#### ○委員

我々の方は逆に言うと、農地を守らないといけない立場にある。

これ相反することであって、やはり津島でも同じようにいろいろな特区を作って、今の調整区域をやはり工業団地化、今しております。やはり、そうしていかないと、当然のことながら市の方の税収も増えないだろうということを私も理解しております。

その中で、今私が一番直面している問題が、先ほど申しましたが、本当に高齢化、特に一般市民の方の高齢化より、農業の高齢化がまた違っておりまして、本当に今から5年先もしたらこの先どうなるかと、自分の町内見渡してもあと10年たったら空き家が増えてくるのかな。空き家が増えるだけならまだいいのですが、当然、そのうちにある田んぼとか、畑みんなございませので、そういったところからどうするのだろう。もう非常に今の組合員さんからもいろいろ、問題を指摘されております。

我々できなくなったから、今、田んぼの方は、皆さんご存知のようにオペレーターさんが見えになりますので、そこに委託すれば、十分やっていく可能性はありますが、一番問題なのは畑です。自分にも畑ございませが、本当に夏場になるともうものすごく草が生えてきて、それを放っておいたら、それこそ消防署から電話があつたり、雑草が生えたり、周りの方から何とかしてくれという言葉聞くようなことにもなっておりますので、そこら辺をこれから農協が何とかしろというお話もございませが、それ本当に実際に農協が手を出していったら、これで皆さんの前で言ったらいいのか悪いかわかりませが、莫大な費用がかかります。そうするとそれをやっていくとすると、もう、今現状、我々、今ここ銀行さん見えになったので、あれですけども、本当に超低金利で、我々も大変なところに今、動いておるわけでありませが、なかなか今までは信用とか共済で儲けてきたお金を、農業の方に向かわせておりましたが、これから本当にいろいろな面で苦しくなつてきますので、それも簡単にはできないのかな。

さりとして、これから先そういうことも目に見えておりますので、もう切実な問題として、本当にこれはこれから先、あま市さんとかいろいろなところ相談しながら進めていかないといけないのかなと、自分はそう思っております。答えになったかどうか分かりませんが、そんなところです。

## 【基本目標2：あま市への人の流れとつながりをつくる】

### （説明要旨）

#### （9ページ）

- あま市は、大都市名古屋のすぐ隣であるが、市内には緑が多く、地価や家賃も比較的安いいため、若い方でも一戸建ての家を手に入れることは難しいことではない。しかしながら、今後、少子高齢化の影響は避けることができない。
- より多くの人々が、あま市のまちづくりに関わっていただけるように、今後、施策を打っていく必要があると考えている。あま市は、合併を行って、誕生して10年という新しい市であり、まだ知名度が十分ではないため、あま市の知名度を高めて、あま市に関わる人を増やす必要があると考えている。
- これを受けて施策（ア）の「市の魅力の発信と知名度の向上」を定める。こちら、人との繋がり観点を追加している。

#### （9ページ～10ページ）

- 関連する事業について、10ページ一番上、「大学連携事業」について、10月27日に、本市と中部大学で包括連携協定を締結した。内容等が書いてあるが、市内に大学がない本市においても、大学を通して新たな人のつながりをつくって、地域の活性化に寄与できるものと考えている。
- またその下、「地域との協働等による高等学校教育の推進事業」（再掲）であるが、将来の地域の担い手ということで、高校生が東京等の大学へ行ったとしても、将来またあま市に戻って来ていただけるような、また、東京にいるままでも、あま市と常につながっていけるような、そういった事業を打っていきたいと考えている。

#### （10ページ）

- 施策（イ）の「観光まちづくり」は、谷口座長からもご意見をいただき、最初は「観光地域づくり」という表現であったが、「観光まちづくり」とさせていただいた。
- また、先日の庁内会議において、観光の所管課が産業振興課になり、観光と商工業の連携が同じ課でできるということになったので、ぜひここは、商工業と観光が連携するような施策を打って欲しい、という意見があったので、次回にはそういった、「商工業と連携した観光のまちづくり」という表現を加えさせていただきたいと考えている。

## (主な質疑等)

### ○座長

「観光まちづくり」については、まだまだ、あま市は、観光のいろいろな資源をもっと発掘できるのではないかと、思っている。この名古屋から近いというのは、マーケットがすぐそばにあるということなので、それが少しでも、交流人口に繋がっていくのがいいのかと、思っている。あと、コンテンツも結構揃っているの、それを上手く活かしていければと、思っている。

「大学連携」については、確かに大学のない自治体はあちらこちらにあるが、愛知県というレベルで見ると、この西尾張地域というのは、非常に弱いというのは確かに事実であり、大学がゼロというわけではないが、やはり、そういう意味ではもっとこう、いろいろ工夫をしなければいけないということで、いろいろな大学と提携されているということは非常にいいことではないかと思う。大学の教員の興味を向ける努力を一生懸命やられている自治体もあり、そういった研究者にとっても魅力のある地域を作っていくということが大切かと思う。

あと「U I J ターン」も、先ほど話のあったテレワークなども絡めていろいろとやっていけるのではないかと思う。

## 【基本目標3：子育て世代の希望をかなえ、誰もが活躍できるまちをつくる】

### (説明要旨)

#### (12ページ)

- 本市においては、比較的良好な居住環境が整っていると考えているが、市民は結婚、出産、子育ての希望が、なかなか叶えられていない状況だと思う。また、若い世代を中心に、やはり子育てというのは、子供を産む、産まないというのは個人の自由ではあるが、若い世代が、子供がいる、いないに関わらず、誰もが活躍できる環境を構築することも重要だと考えている。
- これを受けて、施策（ア）の「安心して子どもを生み育て、活躍できる環境づくり」を定める。

#### (13ページ)

- 新しい事業として、下から4つ目の「児童発達支援センター事業」については、発達に関して悩んでいらっしゃる児童と保護者を支援するものである。
- また、一番下の「ひとり親家庭の子育て支援事業」についても、現在、実施箇所を1ヶ所増やして、甚目寺地区と七宝地区2ヶ所で拡充して実施しているところである。

#### (14ページ)

- 上から2つ目の「子ども・若者支援事業」については、なかなか社会になじめないお子様、ニートですとかそういった方に対し、社会復帰を円滑に行えるように支援をするものである。
- またその下、「家庭教育推進事業」については、市出身の人気漫画家の協力を得て、家庭教育力を向上していくことへも力を入れていく。
- また、その2つ下、「女性活躍推進事業」については、女性活躍情報誌の発行など、元気で生き生きと活躍されている女性の情報を発信することで、更なる女性の活躍を推進するものである。

#### (14ページ)

- (イ)の「学校教育体制の整備」について、指標は、今までと変わっていないような形になっておりますが、適切な指標を今後考えていきたいと思っている。

#### (15ページ)

- 事業について、地域が学校を支える観点を拡充する。
- 上から3番目、「外国人児童・生徒への支援事業」は、最近外国人の児童生徒が増え、国籍も多国籍化しており、言語が増えて種類も増えているため、その児童生徒の親も含めた日本語の指導や、生活への適応の支援を充実する必要があると考えている。
- その2つ下、「学校運営協議会運営事業」は、学校と地域が一体になって、地域に密着した学校づくりを推進していくものである。
- さらに2つ下、「情報教育推進事業」は、全国的に学校教育の中で、非常に大きな影響を与えているものである。今年度中にGIGAスクール構想の一環で、全児童生徒一人一台のタブレットが整備される予定をしており、ただ整備するまでだけではなくて、やはり先生方と児童生徒がいち早くそれをしっかりと活用できるよう、取り組む必要があると考えている。また不登校の児童生徒にも、遠隔でその学校の様子をお知らせしたり、そういったことにも活用できればと考えている。

#### (主な質疑等)

##### ○委員

子育ての当事者に対する支援のみでなく、社会全体で子供を育てていくという視点をぜひ反映させていって欲しいと考えている。

先ほど教育長に、シルバーカレッジでのセミナーの中に、今どきの子育て事情に関係するようなセミナーを入れていただけないか、ということを少しご提案申し上げたが、やはり地域社会全体で子供を育てていく、子育てしやす

い地域を作るということは、今の現在の子育て事情に対する地域社会の一人一人の住民の理解というものが不可欠だというふうに思っている。そういった理解を深めていくことで子育てしやすい地域がつくられていくというふうに考えており、また、若者に対しての、若者が子育てしたいと思えるような啓発活動も非常に重要だと思います。

また、若者に対しての、若者が子育てしたいと思えるような啓発活動も非常に重要だと思う。

あと、もう1点、ここに「託児事業」というのがあり、事業名で関係各課となっているが、現時点で私どもでは、健康推進課と人権推進課からの託児を受託させていただいているが、どちらの事業も有償ボランティアで成り立っている事業である。

コロナの影響で、このボランティアの活動離れがすでに始まっている。ボランティアしている場合ではなくなってしまったというような形で、パートに出られたり、在宅ワークを探されたりとか、非常に皆さん経済的に厳しい状況に置かれているような変化というのをすごく感じる。

このコロナの影響だけでなく、やはりボランティアに関わる人達というのは本当に少なくなっていくのではないかと思う。そういった中で、ボランティアありきの事業ではなくて、それに対してきちんとした予算を見積もっていくとか違う方法を考えることも、これから必要になってくるのではないかというふうに考えている。

## ○委員

この指標の部分で、もう少し具体的にどういうKPIにして評価をしていくのかという検討を、やはり少しせざるを得ないということを思っている。

それから、「公立学校規模適正化検討推進事業」について、平成22年3月に合併をして、その当時にできた公立学校の大規模校と小規模校の、その数の適正化を図ろうということで、いろいろなご意見を委員会を作ってやったわけであるが、結果、選択制でいくというような方向性で進めて、七宝北中学校の場合、数的には1桁台の子供たちが選択をしてくれている状況である。

ただ、それだけではなくて、今、小中学校で17校あるので、公立学校のあり方に関する検討推進といった学校のあり方、数、それから通学距離だとか、いろいろな総合的なもろもろの条件をどうしていくのか、ということの会議を立ち上げて、検討していきたい。小規模校云々ではなくて、学校のあり方そのもの、あま市の学校がどうあるべきか。そういった形なので、小中一貫の問題だとか、そういったことも含めた形で学校数がどうだろうとか、そういったようなことを、専門家の方にも入っていただいて、少し時間をかけて

論議をしていきたい、ガイドラインみたいなものを作っていきたいということを考えている。

それからあとは、「情報教育の推進」については、GIGAスクール構想で1人1台端末が年度末までには入る。

今、課題検討の委員会を作って、まずは先生方に、授業でどう使っていたか、子供たちにこの1人1台端末を使ってどういう力を身につけさせなければいけないのか、というようなことも含めた形でやっていくということを中心に置いて、それができるようになってから、家庭でのGIGAの部分とはまた違ったところでの検討もしていきたい。

#### ○座長

KPIに関しては、アンケートがベースなので、そちらと整合をとらなければいけないので、簡単ではないが、私がふと思ったのは、やはり先生側に対する何か指標みたいなものが一つ入ってもいいのかなと思う。

タブレットでも、やはり教材を作る先生側の負担も、やはりかなり大きい。また先生のそういうITスキルでも、かなり差が出てくるので、これもただ、子どもたちがどうのこうのだけでは済まないと思う。

あと、学校のあり方に関して、これ委員会別途持たれるということで、また、その検討結果を伺いたいと思う。

#### ○委員

「学校運営協議会運営事業」は、昨年度よりあま市内全小中学校でスタートし、私も美和地区の地域コーディネーターとして各学校の運営委員会に出させていただいているが、まだまだ学校側も、地域側も、どういうふうにしていったらいいか分からないというところで、少しスロースタートの感じではある。

先ほど委員もおっしゃったように、すべてボランティアで担えるのかというところが、私も関わらせていただいて、例えば、読み聞かせボランティアをお願いしたいという、地域でお願いしたいというふうなお話もあつたりしますが、全学年の子供たちに、例えば、週1回とか2回というすべてのその対応をボランティアで担うというふうになると、ボランティア側も負担ですし、それだけの人数を集められるかという、受け皿がまだまだなので、そちらの方の整備も必要である。

それから、地域コミュニティがあるところは比較的連携がしやすいが、あま市内にはまだ14コミュニティしかない。しかも、小学校区単位ではなく、字単位という小さなところでコミュニティがあるので、それでも美和地区で言

うと、金岩コミュニティさんが、例えば、美和中学校と美和東小学校をカバーするとか、そこでいろいろな行事の支援をされたりとか、そういったそのコミュニティの関係性、コミュニティスクールの関係性というのは、できつつあるが、一方で、コミュニティがないところは、なかなかその地域に依頼がしにくい。

そういったところの、ボランティアの体制整備というところを、これは、どこの部分に出てくるのかというふうに思っているが、あま市の場合はボランティアの窓口も私どもこのボランティアセンター、それから市民活動センター、それから生涯学習課、この3つで窓口がバラバラになっており、登録制度もまだまだ整備がバラバラで重複もしており、そちらのボランティア連携というか、そこできちっとボランティアの育成とか、そういったところをもう少しやっていかないといけないのと、先ほどボランティアだけでは担えない一方、地域ですべての人が活躍するといったところでは、まだまだアクティブシニアの活躍の機会としては、ボランティア活動というのは非常に有効だと思っているので、少しここの事業はあってもその受け皿という、双方の整備というか、そちらにも目を向けていかないと、なかなかこう数字的には上がっていかず、絵に描いた餅になってしまうというのを非常に痛感している。

#### **【基本目標4：健康で安心して暮らせる、時代に合った魅力的な地域をつくる】**

##### **(説明要旨)**

##### **(16ページ)**

- こちらは当然のことながら、健康で安心というのは非常に大事なことです、これから時代の変化に合わせた、時代に合った魅力的な地域をつくっていきたいという目標である。

##### **(16ページ～17ページ)**

- 施策(ア)の「安全・安心なまちづくり」ということで、こちらは当然のことながら、コロナをはじめとする「感染症予防対策事業」、現在、安全安心課で策定中であるが、「国土強靱化地域計画推進事業」、その下、「避難行動要支援者支援事業」、これは、災害時に避難しづらい方を地域の方がサポートする事業である。
- 現在、建設中の令和5年5月開庁予定の「新庁舎整備事業」は、中枢防災拠点として、市民を守る庁舎ということで、また、環境にもやさしい庁舎ということで、冒頭に申し上げましたSDGsの理念に基づいているものと考えている。

- 「通学路交通安全プログラム事業」については、新規になるが、現在すでに始まっている事業で、警察等と連携しながら、通学路の安全をはかりたいと考えている。

#### **(17ページ~18ページ)**

- (イ)の「健康・生きがい・活力を高めるまちづくり」について、上から6番目の「健康都市連合日本支部総会・大会開催事業」は、本来であれば、令和3年度にあま市で開催予定でしたが、新型コロナの影響で令和4年度開催の見込みである。そのため、令和3年度中には、様々な健康増進事業を拡充すべきであると考えている。その手法については、民間企業との連携等を含めて考えているところである。
- その他、これからの時代に合った、「SDGs普及啓発事業」、「生涯活躍のまち推進事業」、「外国人の活躍促進事業」、「AI・RPA導入促進事業」等をあげている。

#### **(19ページ)**

- (ウ)の「持続可能な都市基盤の整備」について、上から5番目、「都市計画マスタープラン及び緑の基本計画策定事業」は、まちづくりを長期的に見て、大体50年位先を見据えて、将来的にはあま市の人口流入を加速化させて、持続可能な都市づくりを目指すということで、今年度と来年度2ヵ年かけて作る総合計画と整合性を図った計画策定を行う。

#### **(20ページ)**

- (エ)の「鉄道利用の促進と駅前のにぎわいづくり」について、こちら前回は引き続き、「鉄道利用の促進」と、あと要素をプラスして、「駅前のにぎわいづくり」ということで、特に市内の東西に走る名鉄電車、こちらは市民の生活の足になっているので、こちらの利用の促進はもちろんのこと、3つの駅があるので、それぞれの駅の特徴を生かしたにぎわいをつくることが重要であると考えている。こちらそれぞれ、地域の皆さんとともに推進していきたい事業だと考えている。

#### **(21ページ)**

- (オ)の「郷土に誇りと愛着が持てる、魅力あるまちづくり」について、引き続き、まちの魅力を高めて、人が集う、魅力あれば人が集うということで、そういったまちづくりを推進していきたいと思っている。
- これまで推進してきました市民協働の推進はもちろんであるが、特にやはり将来の担い手となる若い人、高校生、中学生、そういった若い人を巻き込むような事業を、特に推進していきたいと考えている。

- 説明は以上になるが、今回は第1回の委員会ということで、こちらの（素案）を説明させていただいて、様々なご意見をいただき、次回の第2回では、もう一度この（素案）について、ご意見をいただき、その後1ヶ月間、パブリックコメントを実施する。そして年度末の第3回の委員会で最終案をまとめさせていただきたいと考えている。

### （主な質疑等）

#### ○委員

安全安心のところで、私もいろいろな他の自治体でこの辺り、非常に重要な課題で、特によく出てくるというか、住民の方の要望で、防犯カメラをつけて欲しいと。その防犯カメラをK P I でカウントしていただくか、あと、見守りで買い物がなかなかできなくなっている方をサポートして欲しい、というような、家から出られない方へ外出ができるような支援を、というようなニーズというのはあま市はないか。例えばそういったものを、K P I で設定するかどうか、適切かどうか分からないが、そういったお声が他の自治体でよく聞くなと思っておりまして、その辺りはどうか。

#### ○事務局

防犯カメラの件につきましては、あま市でも平成29年度から、あま市防犯協会を設立いたしまして、そういった窃盗犯が多い地域で、犯罪が多い地域に、そこを中心にカメラを設置している。また、その効果として、先ほどのK P I の数値もございます通り、かなり犯罪発生件数も減っているということで、防犯カメラを直接、K P I というよりは、犯罪発生件数というものが、今のK P I につながっていくと思う。

また、詳しく把握していないところもあるが、当然、移動ができない人へのサポートの需要というのは、これから増えてくると思うし、我々も移動が不便な方に対しては、地域公共交通ですとか、いろいろ施策を講じているが、まだ、なかなかこれだ、というようなものが見出せていないところもある。そういったことを検討していきながら、持続可能な公共交通ですとか、移動の支援ができないかというのは、またお知恵を貸していただければと思う。

#### ○委員

シルバーカレッジの関係で、K P I が出ているが、この内容についても、どういう形で参加者数であるのか、それとも他も含めた形で、K P I については検討をこれからしていけないといけないのか、ということを考えている。卒業者を対象にした講座を開講し、スキルアップを図ることをしていきたい。

これについては、推進を二本立てでして、ボランティア等々の人数が増えればということを考えている。

それから、「スポーツ推進計画策定・推進事業」と、「生涯学習推進計画策定・推進事業」というのが新規である。あま市も合併して10年経ち、もともと教育立市プランというものを、他で言うと、教育振興計画を立てており、その改定も、ちょうど令和4年ということを目途に、教育振興計画であるから当然、学校教育は無論であるが、生涯学習分野、スポーツ分野、もう一つ教育で言うと、学校給食センターが建ったので、そこにおける食育関係の問題。そういった、要するに一番の大元になるものを、令和3年度の中で検討して、委員会を立ち上げる。学識経験者も入っていただき、あま市全体の10年間で、そういったものをきちっと定めて、目標を、できることならそのKPIというような形で評価をして、プラン、チェック、アクションに則って、3年ぐらいのところで修正をかけていく。あるいは、年度ごとの評価をしながら、次なる目標値を設定していくような形のものを、スパイラルにできるようにしていきたいと思っている。

それから、先ほど委員からのご指摘もあったが、地域学校協働本部の運営事業ということで、学校に集中してしまったいろいろなやらなければいけないことを、保護者さんや、地域の方に返していくというのが本当の目的である。だから、ボランティアさんだけではなくて、当然、生涯学習分野で文化協会さんや、スポーツの分野でスポーツ協会さんや、総合型スポーツクラブもあるわけで、そういった人たちの、そういった地域学校協働本部への参入というか協力を図っていくためのスポーツ振興計画や、そういったようなものをきちっと生涯学習の推進計画を立てていきたい。連動をそれぞれしているので、そんな形で進めていきたい。

#### ○委員

この「生涯活躍のまち推進事業」というのが、下から3番目にあるが、先日、国の方の生涯活躍のまちの研修を受講した。それで、あま市の方はまだ「推進する意向がある」というところには入っていなかったもので、今後、あま市も推進していくという認識でよかったか。

それから、この生涯活躍のまちアドバイザーを養成し、というふうにあるので、これはこういった養成講座などを計画して、市内でそういった生涯活躍のまちアドバイザーを養成して、そういうまちを推進してまちづくりを推進していくという認識でよかったか。

○事務局

生涯活躍のまち自体は、これまでは首都圏にいる高齢者を地域に呼んで、地域で生き生きと生涯生活をしていただきたい、という高齢者に特化した国の事業、地方創生の事業だったが、全世代活躍のまちづくりというような観点に変わった。そうなってくると、やはり、あま市は市民協働を推進しているということで、様々なお立場の方が、共に連携してまちづくりをしていかなければいけないということで、生涯活躍のまちに当てはめて推進していく予定である。

また、今のところはまだ市単独での、まちづくりアドバイザー養成講座ということは予定していなくて、まずは、委員が出席されたような、広域的に開催している研修に積極的に参加して、それぞれそういった実施主体のスキルを上げていきたいと。そこからまた連携が始まるというような流れを想定している。

○座長

一番下のAI・RPA導入促進とあるが、今、行政によっては、市民からの相談にAI、ロボットを使っているところが増えてきているという話があるが、あま市はどうか。

○事務局

今、愛知県と共同で、あま市も参加させていただいている。要するに質問して、AIに覚えさせて、回答を導いてくもので、精度の方がまだよちよち歩きのところがあるが、今後活用していきたいという、まだスタートのところである。

○座長

あと、SDGsに関しては、私の研究室が、うちの大学で私が担当になったため、また私の方でいろいろ情報が集まったら、またこちらの方にフィードバックさせていただきたいと思う。是非あま市も研究フィールドとしてご協力いただいて、こういった普及啓蒙をどうやっていくかっていうことを、ぜひご協力させていただきたいと思う。

○座長

「持続可能な都市基盤の整備」のところで、都市計画マスタープランは同時に進めていくということであるため、また、適宜、情報をいただいて、整合を図るようにさせていただければと思う。

## ○座長

「鉄道利用の促進と駅前のにぎわいづくり」というところで、ここはやはり3つの駅があるので、それぞれ別々に魅力のある駅前づくりを、それも競争できるような感じで、そこにぶら下がって、よく使っている高校生だとか、そういった人たちが積極的に関わっていただいて、いろいろな例えばイベントを同時に開催して、スタンプラリーか、人が渡り歩けるようにするとか、いろいろなアイデアを出していただく。

3つあるというのは非常にプラス要因だと思っている。マスタープランの方とも絡むと思うので、ぜひ、その辺りよろしくお願ひしたい。

## ○委員

「郷土に誇りと愛情が持てる、魅力あるまちづくり」のところで、美和高校は、現在、地元の方に、高校生の社会人としての育成の機会をたくさんいただいている。本日、手元に資料配付させていただいたものが、先日、ここに見えます立松委員様、それから生涯学習課の近藤様に、あま市について講話をいただき、それに基づいて、生徒たち1年生、6クラス全員の生徒が、総合的な探求の時間を利用して、あま市活性のための自分たちが考える提案ということで挙げたものである。

確かにまだまだ1年生で、幼稚な部分もたくさんあるが、これを、中身をこれから、インターネットや、自分の足で調べたりしながら、実際、具体的にこのようなことを作り上げていくというところが、今年の1年生の今の時期やっておることである。本当はもう少し早くやり、夏休みにフィールドワーク等できればよかったです。コロナの関係でできませんでしたので、今年はこの時期でやっております。将来的にはぜひ、地元の方のお力を借りて、一つでも二つでも実現化できるようなことがあればいいというふうに考えている。

本校は、地域で活躍する人材の育成というのが教育目標になっている。地元で活躍する、人のために頑張れる、そういう生徒を育成するというのが教育目標で、それを踏まえてこういう活動を1年生から行っている。

そして来年度、美和校独自で地域連携センターを設立したいというふうに考えている。あと最終、県の教育委員会の方で、GOが出たら正式に、この委員の方にも何名か入っていただきながら、センターで地域活動のいろいろな活動、今まで出てきた生涯学習課に関わるものも含めて、企画政策課やいろいろな課の方が、本校の生徒、今、活躍の場を与えていただいておりますので、それをひとつ取りまとめながら、そのセンターの方でまとめていろいろところで子供たちを育てていただくというか、地域で育てていただくというこ

とを願いたいと思う。ご負担をおかけすることの方が多というふうになっているが、何卒、将来の人材育成ということで、長い目を見て、本校の方のそういう活動に関してご理解いただきたいというふうになっている。

#### ○委員

高校生、中学生の地域活動等参加促進について、今まで、中学生で言うと、勉強と部活さえやっていけば親も満足するし、子供たちも満足しているという時代がずっと続いた。やはり教員の働き方改革や、子どもたちへの健康だとかを考えたときに、部活に対してのガイドラインができた。

やはり中学生、地域の方々も、本当に遠慮して見えた部分がある。

だけども、昨年度、家庭教育読本を作る時、地域のいろいろなお祭りや、地域行事はものすごくあり、それも紹介をしているわけであるが、だから地域の方々、中学生に声がかかりやすい状況を作っていく、遠慮せずに、住民の1人として、小学生も中学生もその社会の一員、住民の一員として扱ってほしいというのを、もっともっと何て言うのか、PRをしてかなければいけないし、やはり魅力があれば自然に子供たちが行ってもらえる部分もあるので、地域の方々との触れ合いというものをしっかりと作って自然に、あま市にもうこれからもずっと住むというような、やはり民意というか、そういうのを育てていきたいということを、教育委員会としては、生涯学習も含めて、それからいろいろな方々等を含めて、コミュニティの方々等も含めて、やっていきたいというようなことを実践していきたいと思っている。

やはりそのためには、中学生の意識を変えなければいけないし、小学生の意識も、小学校は自然にやっている部分があるが、地域行事にとにかく小中学生がたくさん、自分からこう進んで参加できる雰囲気を作っていくことを思っている。

#### ○座長

先ほどの委員のお話もございましたが、今、いろいろな大学に声をかけられて、一緒に探求の時間等の充実ということをお考えになっているということをお伺いして、私も協力させていただきたい。この探求の時間等で、例えば夏休みなどに大学生と一緒に、何かこういったことを探求するというような機会を設けていきたい。

また、もし可能であれば、特に重要な案件に関しては、担当部局の方が説明していただく方が望ましいと思うので、ぜひご検討いただければと思う。

○事務局

こちらについては、検討させていただきたいと思う。

○座長

決して不十分ということではないが、中には非常に重要な案件もあると思うので、その辺りは、説明していただいた方がいいということと、今後、都市計画マスタープランとかが進むのであれば、そういった説明もしていただけた方がいいというふうに感じている。

○事務局

前向きに、検討させていただきたいと思う。

その他ということで、次回開催日時が、まだ決まっていないため、また改めて、委員の皆様にはご案内させていただきたい。